

## 会越・御神楽岳前岳V字スラブ

(2007年9月の記録)

山田英夫

日程：2007年9月9日(日)夜～9月11日(火)

参加者：秋田誠、安斎恭一、高田長一、山田英夫

お流れになった上京歓迎パーティー。

秋田さんの上京に合わせ5日(水)夜～7日(金)を御神楽岳、金曜日夜に新宿で歓迎パーティーの予定であった。しかし、折からの台風9号が6日木曜の夜半に関東を直撃し、山行は翌週に延期。翌日金曜日も交通機関は乱れ、秋田さんは上京出来ず歓迎パーティーはお流れとなってしまった。諦め切れない安斎、山田、高田の3名は当日の予定場所であった「さくら水産」の雨漏りのする場所でビールを飲んだのであった。

9月9日(日)曇り

めでたいことに関東の3人はいつでも会社を休める状態にあるため、日程の延期は何の問題もなかった。日曜日夕刻6時、南大塚駅に集合。福島県大沼郡金山町のJR只見線本名の駅を目指して車を走らす。関越自動車道の小出ICで降り、R252を北東へととる。対向車は殆ど通らない山深い道に行く。ドライバー3名で交代しながら行くが、さすがに疲れる。2時半頃、本名駅の標識のあるところまで来て駅を探すがあるのは墓のみ。やっと見つけた駅は、すこぶる可愛い駅であり、軒下を借りるにはちいさ過ぎる駅であった。公共の駐車場とおぼしき所にテントを張った。夜中に少し雨に降られた。

9月10日(月)曇り後雨

駐車場5:40 --- 林道終点6:10～6:20 --- 八丁洗い板手前の河原7:15～7:35  
--- 鞍掛沢出合(TS)7:50～8:20 --- V字壁出合9:05～9:15 --- 20メートル滝  
上10:15 --- V字の広場手前10:40～12:10 --- 第2ルンゼ1ピッチ終了点12:  
10 --- 20メートル滝下15:20 --- TS16:20



八乙女滝

5時に起床し、車は霧来沢に沿って林道をさかのぼる。6時過ぎ林道終点に到着。身支度を整え出発する。林道は沢沿いに殆ど水平で、変化の乏しい林道歩きに飽きてきた頃、八乙女の滝に出会う。滝から少し行くと河原が近くなる。行く手を塞ぐブッシュと横の河原を比べると自然と河原に行くことを選択したくなる。ここまでが約1時間であった。川床は綺麗なナメであり、そこが八丁洗い板であることが分かる。本日のテントサイトを探しながら歩き、15分ほど歩いた鞍掛沢出合近くにテントを張る。



八丁洗い板のナメ



V字スラブが頭上に



20m滝

テント設営後、身支度を整えV字スラブを目指す。沢の途中には碧色の岩の場所があり、非常に綺麗であった。V字スラブが近づくとつれ沢の岩も大きくなり、V字スラブから続く20メートルの滝に出会う。滝の右側にはルンゼが走っており、これを高巻き灌木帯に出る。そこよりトラバース気味にV字の広場を目指す。傾斜はそれほど急ではないが、ピレーポイントが全く無くスリップは出来ない。ザイル確保3ピッチでV字の広場に到着。雪のためであろうか、広場の岩は何か硬いもので削り取られたよう

な跡形が付いていた。この基部から本格的な登攀になる。当初は初日第スラブ、2日目第スラブを登る予定であったが、第スラブは見るからに険しくそそり立っており、また時間や天候を考え第スラブを登ることとなった。

1ピッチ目、基部にハーケン2枚を打ち、ピレーポイントを取る。ランニングピレーのポイントは殆ど無くフリクションを頼りに登る。後続の3名が1ピッチ目を終了する頃、霧は更に濃くなり小雨模様とな



雪に削られた岩



第スラブ(中央やや左)



V字のテラスへ



1ピッチ目



V字テラスへ撤退

ってきた。ここで秋田さんより撤退の号令が出る。初めての場所であり、時間もかかり、この天候を考えると、撤退が無難である。50メートル2ピッチ、25メートル2ピッチで灌木帯に到達。そこから傾斜の緩やかな所を拾っていくとルンゼに出た。

夕食は河原で行う。この天気なので焚き火とまではいかないが、それでも大きなトチの木の下での食事は気持ちが良い。時々何の前触れもなく「ガンッ」とトチの実が落ちてくる。食事も終わり、寛ぎ始めた頃雨が激しくなってきたのでテントに入る。テントは5人用のエスペース。フライシートは無く、かなりの年代物である。昨日設営の時にポールが折れてしまい変な格好になっているが、それでも十分なスペースを確保できた。しかし今度は雨。安斎さんがブルーシートを準備してくれていたが、それは小型トラックの荷台用のもので少し小さい。がないよりまし。しかも今日は朝から全身濡れており、テントの多少の雨漏りはお愛嬌である。銀マットの下まで浸水状態だが心地よく寝に入る。

9月11日(火)快晴

TS 6:00 --- 杉山ヶ崎 7:15 --- 御神楽岳管理舎 7:50~8:10 --- 本名御神楽岳  
8:30~8:35 --- 御神楽岳 9:15~9:30 --- 御神楽岳管理舎 10:15 --- 杉山  
ヶ崎 10:40 --- TS 11:20~12:05 --- 駐車場 12:55

5時起床。昨日の話の通り今日は御神楽岳を目指す。道ははっきりしているが、草が生い茂っておりずぶ濡れとなる。途中木々の間から前岳南壁のスラブが良く見える。杉山ヶ崎で稜線に出、熊打場クサリ場、御神楽岳管理舎を過ぎると本名御神楽岳の頂上に着いた。周りは遮るものが無く、最高の眺望である。この最高の眺望に我々は満足して下山の予定であったが、長さんより「せっかくここまで来たので御神楽岳まで行こう」という声が出た。「次はいつ来ることか分からない」という強い説得のもと、やっと腰を上げた。本名御神楽岳から御神楽岳への稜線はずい分と笹や灌木が生えており少してこずった。ズブ濡れになった上に笹の上でツルリと滑る。右側は絶壁となっており、緊張する場所である。御神楽岳からは水晶尾根の広大なスラブが見て取れた。山頂で再び360度の展望を楽しんだ後、快晴の中を下山した。



前岳南壁スラブ



本名御神楽岳より御神楽岳



水晶尾根のスラブ

